

# 運輸安全管理への取り組み

銀嶺タクシー株式会社

# 銀嶺タクシー株式会社 安全管理規定

## 目次

- 第一章 総則
- 第二章 輸送の安全を確保するための事業の運営と方針等
- 第三章 経営トップの役割等
- 第四章 安全管理の実施等
- 第五章 安全管理の取り組み状況の点検と改善等

## 第一章 総則

### (目的)

#### 第一条

この規定(以下「本規程」という。)は、道路運送法(昭和二十六年法律第183号)(以下「法」という。)第22条(輸送の安全性の向上)及び第29条の3(情報の公開)[貨物自動車運送事業法(平成元年法律第83号)(以下「法」という。)第15条(輸送の安全の向上)及び第24条の2(情報の公開)]の規定に基づき、輸送の安全を確保するために遵守すべき事項を定め、もって輸送の安全性の向上を図ることを目的とする。

### (適用範囲)

#### 第二条

本規程は、当社の旅客運送事業に係る業務活動に適用する。

## 第二章 輸送の安全を確保するための事業の運営と方針等

(輸送の安全に関する基本的な考え方(安全第一、法令遵守等を記載した「安全方針」)

#### 第三条

- 経営トップは、輸送の安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、社内において輸送の安全の確保に主導的な役割を果たす。また、現場における安全に関する声に真摯に耳を傾ける等、現場の状況を十分に踏まえつつ、社員に対し輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底させる。
- 輸送の安全に関する計画の策定、実行、チェック、改善(Plan Do Check Act)を確実に実施し、安全対策を不断に見直すことにより、全社員が一丸となって業務を遂行することにより、絶えず輸送の安全性の向上に努める。また、輸送の安全に関する情報については、積極的に公表する。

### (輸送の安全に関する目標)

#### 第四条

第三条に掲げる方針に基づき、目標を策定する。

(輸送の安全に関する計画)

#### 第五条

前条に掲げる目標を達成し、輸送の安全に関する基本的な考え方(安全第一、法令遵守等)を記載した安全方針に応じて、輸送の安全を確保するために必要な計画を作成する。

### 第三章 経営トップの役割等

(経営トップの役割)

#### 第六条

1. 経営トップは、輸送の安全の確保に関する最終的な責任を有する。
2. 経営トップは、輸送の安全の確保に関し、予算の確保、安全管理体制の構築等 必要な措置を講じる。
3. 経営トップは、輸送の安全の確保に関し、安全統括責任者の意見を尊重する。
4. 経営トップは、輸送の安全を確保するための業務の実施及び管理の状況が適切かどうかを常に確認し、必要な改善を行う。

(社内組織)

#### 第七条

1. 次に掲げる者を選任し、輸送の安全の確保について責任ある体制(P5図-1)を構築し、輸送の安全を確保するための社内統治を適確に行う。
  - 一、安全統括管理者
  - 二、運行管理者
  - 三、整備管理者
2. 安全統括管理者は、輸送の安全の確保に関し、営業所内各課を統括し、指導監督を行う。
3. 輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統については、安全統括管理者が病気等を理由に本社に不在である場合や重大な事故、災害等に対応する場合も含め、別に定める組織図による。

(安全統括管理者の選任及び解任)

#### 第八条

1. 会社の人員体制上、可能な場合には、安全を統括する責任者(以下「安全統括管理者」という。)1名を選任する。
2. 安全統括管理者が次の各号のいずれかに該当することとなったときは、当該管理者を解任する。
  - 一、身体の故障その他のやむを得ない事由により職務を引き続き行うことが困難になったとき。
  - 二、関係法令等の違反又は輸送の安全の確保の状況に関する確認を怠る等により、安全統括責任者がその職務を引き続き行うことが輸送の安全の確保に支障を及ぼすおそれがあると認められるとき。

(安全統括管理者の業務)

#### 第九条

安全統括管理者は、次の掲げる業務を行う。

- 一、全社員に対し、安全方針の社内周知を行うこと。
- 二、安全目標を作成し、社員を指揮・指導し、安全目標の達成に向けた取り組みを積極的に  
行うこと。
- 三、経営トップとの連絡を密にし、輸送の安全に関する情報を集め、経営トップに適時、  
適切に報告すること。
- 四、会社の人員規模に応じた安全管理の取り組み体制を決め、各自の役割を定め、  
社内に周知する。
- 五、安全管理の取り組み状況を年に1回は点検し、その結果を経営トップに適時、  
適切に報告すること。

### 第四章 安全管理の実施等

(輸送の安全に関する情報の伝達及び収集)

#### 第十条

経営トップ、又は安全統括管理者は、輸送の安全に関する情報が適時、適切に社内に伝  
わるようにするとともに、現場の声を適時、適切に把握する。また、旅客から輸送の安全に関す  
る意見・要望を必要に応じてアンケート等により収集する。

(法令等の遵守)

#### 第十一条

社員は、輸送の安全に必要な関係法令、通達及び社内規則を遵守するとともに、  
経営トップ、又は安全統括管理者は、それらの状況を定期的に確認すること。

(輸送の安全に必要な手順・規則)

#### 第十二条

安全統括管理者は、本規程の写しを配布又は、掲示する等して社内に周知すること。

(教育・訓練)

#### 第十三条

経営トップ、又は安全統括管理者は、輸送の安全にかかわる者に対し教育・訓練を  
定期的実施する。教育・訓練の実施に当たっては、外部が主催する運輸安全マネジメント制度  
に関するセミナー、講習会等を活用する等して適切に実施し、それら実施状況を記録し保管する。

(事故等の対応)

#### 第十四条

1. 社員は、事故・災害等が発生した場合は、事故・災害等に関する報告連絡体制図(P5図-2)により、経営トップ及び安全統括管理者にその情報を適時、適切に報告する。
2. 経営トップは、自ら、又は安全統括管理者に指示する等して、前項により報告を受けた事故について、再発防止策を検討・実施する。
3. 経営トップは、自ら、又は安全統括管理者に指示する等して、必要に応じて現場からのヒヤリ・ハット情報(事故にならなかったが、「ヒヤッと」した、「ハッと」したできごと)を集め、事故防止のために適切な対応策を講じる。
4. 経営トップは、自ら、又は安全統括管理者に指示する等して、他の事業者の事故事例等を積極的に集め、自社の事故防止に活用する。
5. 経営トップは、重大な事故等が発生した場合の対応方法をあらかじめ決め、自ら、又は安全統括管理者に指示する等して、社内に周知する。
6. 経営トップは、自ら、又は安全統括管理者に指示する等して、前第一項から第五項までの実施状況を記録し、保管する。
7. 自動車事故報告規則(昭和二十六年運輸省令第百四号)に定める事故があった場合は、国土交通省へ必要な報告又は届出を行う。また、災害等により事故等があった場合は、国土交通省その他関係機関に必要な情報提供を行う。

#### 第五章 安全管理の取り組み状況の点検と改善等 (安全管理の取り組み状況の点検と改善)

##### 第十五条

1. 輸送の安全に向け、定期的に安全管理の取り組み状況を点検し、把握した問題点を改善することが重要であり、経営トップ及び安全統括管理者は、以下の取り組みを行う。
2. 経営トップは、自ら、又は安全統括管理者に指示する等して、少なくとも年に1回、安全目標の達成状況や安全管理の取り組み状況を、別紙2「安全管理の取り組み状況の自己チェックリスト」の活用等により、点検する。安全統括管理者はその結果を経営トップに報告する。
3. 経営トップは、前項の点検結果、問題があることが分かった場合には、必要な改善を行う。
4. 経営トップは、自ら、又は安全統括管理者に指示する等して、前第2項及び第3項の実施状況を記録し、保管する。

#### (情報の公開)

##### 第十六条

1. 輸送の安全に関する基本的な考え方(安全方針)、輸送の安全に関する目標及び当該目標の達成状況、自動車事故報告規則第2条に規定する事故に関する統計は、毎年度、外部に対し公表する。
2. 事故発生後における再発防止策等、行政処分後に輸送の安全の確保のために講じた改善状況について国土交通省に報告した場合には、速やかに外部に対し公表する。

(輸送の安全に関する記録の管理等)

第十七条

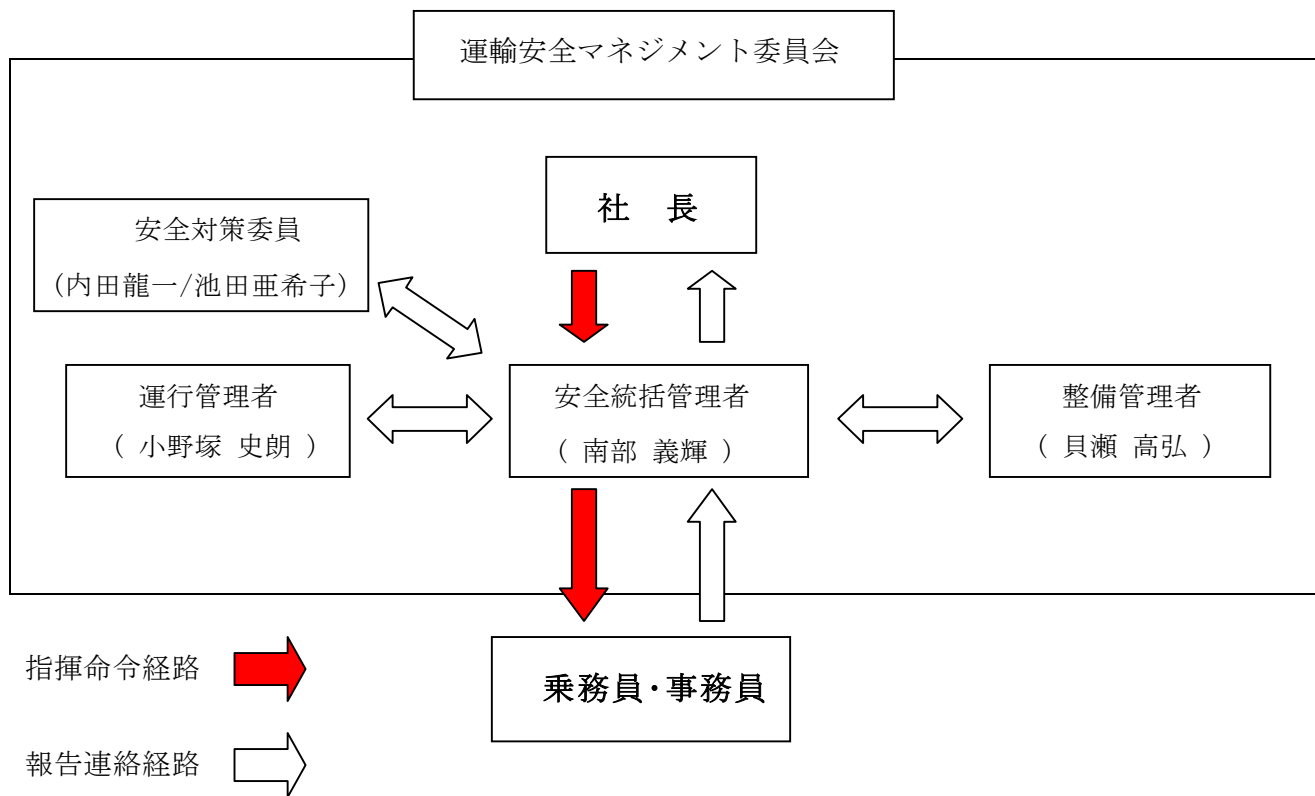
1. 本規程は、業務の実態に応じ、定期的に及び適時適切に見直しを行う。
2. 輸送の安全に関する事業運営上の方針の作成に当たっての会議の議事録、報告連絡体制、事故、災害等の報告、安全統括管理者の指示、安全管理の取り組み状況の自己チェックリストの結果、安全の確保の状況の点検の結果判明した問題とその解決のため対応した状況等を記録し、これを所定の場所に適切に保存する。

附 則 (実施の期日)

本規程は、平成 26年 1月 1日から実施する。

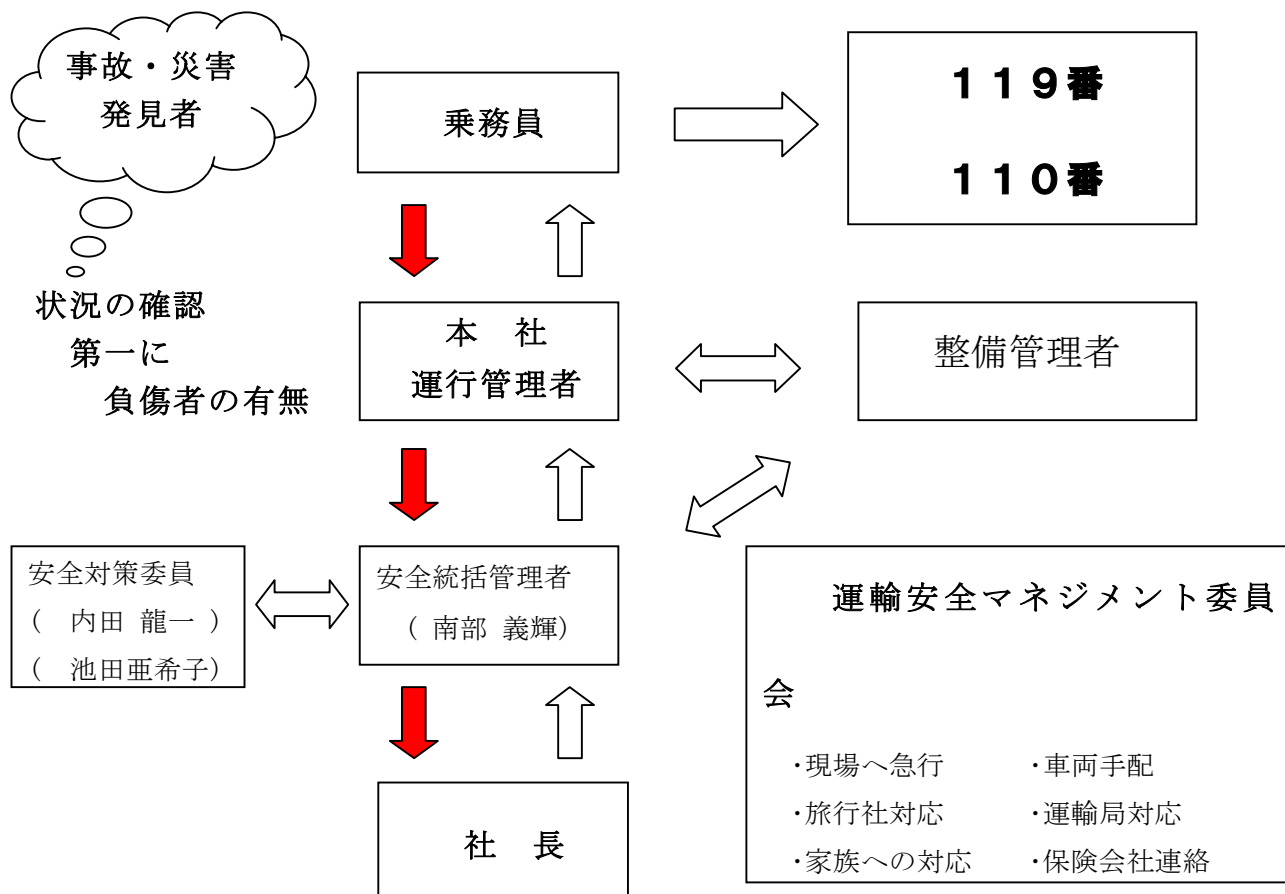
図-1

# 安全管理体制図



# 事故・災害等に関する連絡体制図

図-2



# 安全方針

銀嶺タクシー株式会社は、安全は最大の顧客満足である事を認識し安全性の向上に向けての基本的な方針を実施するため、経営陣が先頭に立ち、強い意志とリーダーシップにより、社内の意思疎通を積極的に図る事で、本社と現場の円滑な連絡体制を確立し、輸送の安全に取り組んでまいります。

- (1)安全が業務の基本動作であることを社員に徹底します。
- (2)社内の意思の疎通を図るために経営陣自ら現場に出向き、透明性の高い職場づくりに努めます。
- (3)常に安全意識を高く持ち、社会の変化に対応しつつ確固とした体制を目指します。
- (4)安全に関する教育、訓練、研修等を適時適切に実施します。
- (5)輸送の安全に関する取り組み状況等の情報について、積極的に公表します。
- (6)関係法令の遵守と輸送の安全確保が最も重要であるという意識を社内に徹底します。

平成 25年 12月 20日

銀嶺タクシー株式会社  
代表取締役 羽吹 忍



# 輸送の安全目標

## 1 事故削減目標

	重大事故		交通事故		内 訳
	目標	実績	目標	実績	
平成30年度	0件	0件	2件	2件	2件[人身0件 物損2件(内無責2件)]
平成31年度	0件	件	2件	件	

※1 重大事故は、自動車事故報告規則第2条に規定する事故をいう。

※2 交通事故は、重大事故を除く有責・無責のすべての事故をいう。

## 2 関係法令及び社内規定の遵守を確保

関係法令及び社内規定(安全を管理する規程等)の遵守は、四半期毎に教育を実施します。

## 3 安全管理の取組状況の点検と改善

安全を管理する規程に基づく、「安全管理の取り組み状況の自己チェックリスト」により1年に1回以上チェックを行い、全員で必要に応じて問題の解決に向けた対策を講じます。

## 4 輸送の安全に関する教育、研修計画を作成し、これを適確に実施します。

- ① 事故防止対策会議（毎月1回開催）
- ② ドライバーミーティング（四半期毎開催）
- ③ 事故惹起者への指導（事故発生時）

## 5 輸送の安全に対する経費

ASV 技術搭載車両への入替 6月予定【大型バス1台】4,300万円

アルコール検知器保守管理費 13,5万円

平成31年 1月 1日

銀嶺タクシー株式会社

統括運行管理者

安全統括管理者 南部 義輝

